

第18回（定例）兵庫県教育委員会会議録

1 開会・閉会の年月日時及び場所

令和4年1月6日（木）15:00～16:00

神戸市中央区下山手通5丁目

兵庫県教育委員会教育委員会室

2 会議に出席・書面提出した者の職氏名

教育長 西上教育長

教育委員 清水委員 牧村委員

空地委員（書面提出） 横山委員

並河委員（書面提出）

事務局 西田教育次長 唐津教育次長

吉田事務局参事兼総務課長 稲次教職員課長

村田義務教育課長 小俣特別支援教育課長

西田高校教育課長 北中体育保健課長

3 署名委員の指名等について

(1) 署名委員は、西上教育長の指名により、次のとおり決定された。

清水委員 横山委員

4 前回会議録の承認に関する件

第17回（定例）兵庫県教育委員会会議録の承認

第17回定例教育委員会における議事5件、協議事項1件、報告事項3件の会議録について、吉田事務局参事兼総務課長が説明し、全員異議なく承認された。

5 教育長の報告

(1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大傾向への注意喚起

県立学校長に送付した標記事務連絡について、北中体育保健課長が報告した。

6 報告事項

(1) 令和3年度新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアアンケート第2回調査結果

長期にわたる新型コロナウイルス感染症の影響により、精神的に不安定な状況にある児童生徒の状況を把握し、その心の理解とケアへの取組に資する標記アンケートの第2回調査結果について、村田義務教育課長が報告した。

(2) 令和3年度学力向上シンポジウムの開催

本県児童生徒の一層の学力の向上に資するため、標記シンポジウムを開催することについて、村田義務教育課長が報告した。

7 委員の主な意見及び事務局の説明

(1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大傾向への注意喚起

(牧村委員)

今後、入学試験が本格化するため、各学校においても突発的な対応等へのシミュレーションなど、準備をしておく必要がある。

(西田高校教育課長)

高校入試に関しては、受検する中学生や保護者にできる限り不安がないような形で進めている。追検査の内容等については、次回の教育委員会で報告したい。

(西上教育長)

高校入試は、昨年度の実績や大学入試の方針などを参考にして、準備に万全を期していきたい。濃厚接触者は受検できるが、感染してしまうと受検できなくなることに注意喚起や、県の無料PCR検査についても周知していきたい。

(牧村委員)

高校入試も公立と私立に分かれ、公立にも県立と市立があるが、各々連携できているか。

(西田高校教育課長)

公立高校の入試は、神戸市をはじめ市立高校を設置する市教育委員会も同様の形で進めている。私学については、各学校での対応になってくるが、昨年の実績を基に今年度も適切に対応されると思う。私学からも状況を聞き取りながら進めていきたい。

(西上教育長)

私学の入試が先に実施されるため、適宜、情報収集をしていきたい。

(2) 令和3年度新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアアンケート第2回調査結果

(横山委員)

「リラックスする方法を知らない」児童生徒が小学生で2割以上、中学校で2割弱いるが、この児童生徒は、もともとリラックスしているからリラックスを考えないのか、あるいはどうしていいのかわからないままにいるのか気になった。「リラックスする方法を知らない」と回答した児童生徒のストレスの状況などを分析していただければ嬉しい。

(村田義務教育課長)

ストレス値とリラックスの実施のクロス集計は取っていないが、ストレス値と相談希求の集計は行っており、ストレス値の低い児童生徒は、相談する必要があると思っているという結果が出ているため、おそらくリラックスする方法を知らなくていいと感じているものと思われる。一方で、児童生徒が実際にリラックスをしている方法として、音楽を聴くことや、寝ることの回答率が高く、日常生活の中で一定程度リラックスできているため、スクールカウンセラーを通じて言っているような呼吸法や筋弛緩法はそこまで必要性を感じていないと分析している。

(空地委員：事務局代読)

ストレスはコロナに限らず日常的に存在するため、今後、コロナの影響が少なくなっても引き続きストレスに関するアンケート調査は行なってほしい。

(西上教育長)

全県的な調査をすることは、今年は最後とするが、必要に応じて各市町で調査

をするように依頼していきたい。

（並河委員：事務局代読）

資料2ページの短時間に気軽にリラックスできる「リラックス体操」や「呼吸法」などの提案とともに、学級活動等で定期的を実施することが必要ではないか。

また、児童生徒が悩みを相談できるかどうかは、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが児童生徒と信頼関係を築くことができるかが非常に重要である。

加えて、全体の調査結果を見る中で、コロナ禍の生活に慣れてきているように感じられるため、悪い意味での慣れには意識をし直すよう再確認が重要である。

（村田義務教育課長）

1点目のリラックス方法については、小学校では時間がとりやすいため、ストレス対処法を実践できているものの、中学校ではあまりできておらず、結果として低くなっている。設問の聞き方が影響していると考える。あえて時間を取らなくても、いろんなどころでできる環境というのを作っていくように引き続き指導したい。

2点目の相談相手については、児童生徒にとってスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが一番身近な存在になって欲しいと思っている。そのためは、スクールカウンセラー便りや学校からの発信などにより、児童生徒のSOSをキャッチできるシステムをつくる必要があると思っている。

3点目については、咳エチケットも減少しているという結果も出ているため、悪い意味でのコロナ慣れをしないように再度徹底するべきと感じている。

（清水委員）

身近に悩みを言語化できる相手がいて、愚痴に近いようなおしゃべりをした経験を持っているかどうか重要になってくるが、ネット社会になって生身の人とやりとりをする機会が少なくなっている。以前と違って子どもたちにアプローチしていくことが難しくなっており、どうアプローチしていくかがスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにとって大切になっている。

（村田義務教育課長）

相談相手についての調査結果では、習い事などの先生というのも特に中学生で高くなっており、おしゃべりの中で相談もできる雰囲気づくりが大事かなと思う。例年とっているアンケート調査によると、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの対応は、人によって様々だが、人との関わり方や助言の仕方等については、研修会等を活用して課題意識を持ちながら取り組んでいきたい。

8 閉 会

9 教育委員会会議以外の活動等（1月6日～19日）

活 動 内 容 等	実施日等	委 員 名
令和5年度兵庫県公立学校教員採用候補者選考試験 にかかるとIT・情報系資格の加点措置への意見聴取	1月6日 (1月6日公表)	清水委員、牧村委員、 横山委員

以 上